

令和5年度 第2回高知市広聴広報推進委員会 議事概要

○開催日時:令和5年11月16日(木)18:30~20:30

○場 所:本庁舎6階 618 会議室

○出席者:玉里委員長,西村委員,徳弘委員,松本委員,畠中委員,池田委員,前田委員
事務局(森田課長,川添補佐,福富係長,松原,津野,川久保,岩原)

○会次第

1 開会

2 委員長代理挨拶

3 議事

(1)令和5年度広聴広報戦略プランの取組報告

事務局より第2期広聴広報戦略プランに基づく令和5年度の事業の取組状況について,広聴事業,広報事業,組織・体制に関するスキルアップ事業に分けて説明。

(2)第3期広聴広報戦略プランの素案について

○項目ごとの意見等概要

(1)令和5年度広聴広報戦略プランの取組報告

【委員】

今年度取り組みを行って来て何か傾向や変わってきたこと,効果はあるか。

【事務局】

広聴広報研修はアンケート結果を見ても,満足度が高く,広聴広報担当者ではない職員からも参加希望があり,各課で伝わる広報をしていこうという意識は,少しずつ身に付いていっていると思う。

『広報あかるといまち』のリニューアルについては,イラストや写真が多く見やすくなったという意見や,二次元コードから興味のある記事間するホームページにアクセスしやすくなったという意見もあり,リニューアルの効果があつたと感じる。

■手話動画チャンネル

【委員】

開設した経緯は。

【事務局】

高知市では手話言語条例を策定しており,すべての市民の方に分け隔てなく広報をしていくというなかで開設に至った。

【委員】

動画に音声や字幕も表示させることができると思うので、聴覚の少し衰えた方に対応したチャンネルとなるよう精査したらいいのではないか。

【委員】

字幕や音声が入ったら、いろいろなところからの需要が増えると思う。

【事務局】

開設に当たっては、音声や字幕の表示についての意見もあったが、手話は一つの言語であり、活字と手話では伝える際の表現が違うとの意見を踏まえ、使用しないこととした。

今は視覚障害者に特化したページ構成となっているが、いろいろなご意見を踏まえながら、今後の展開は考えていきたい。

【委員】

字幕や音声を入れ、手話も入れていくということが本来が一番いいと思うが、先ほどの手話と字幕では表現が違ってくるとい話もあり、そのあたりの住み分けが難しいと感じた。

【事務局】

ちょうどこのチャンネルを撮影する際に手話をされている方が、実際にテレビで撮られたことのある方だった。その時には文字と音声は先に撮られていて、それを聞きながらの一発撮り、と聞いた。手話をする人によって、似た様な言葉が手話ではズレることはよくあるそうで、大筋は一緒でも、解釈が少し違ったりするそう。

【事務局】

当事者である聴覚障害者団体としては、文字や音声の入ったものではなく、手話に特化したチャンネルが欲しいという話が以前よりあり、文字情報を入れていないという経緯もある。

まだ開設したばかりであり、これからいろいろご意見をいただきながらやっていきたい。

■ 出前講座

【委員】

申し込まれる方が、出前講座を知ったきっかけは主に何か。

【事務局】

町内会にパンフレットを配布しているため、町内会の回覧等でご覧いただいている方と、子ども向けの講座に関しては、放課後児童クラブで利用されるケースが多いので学校で知られているところがある。

また、最近では、企業の方も関心を持っていただいております、ホームページなどで調べられ申し込みをいただいているのではないかと。

■市長と語ろう会

【委員】

市長と語ろう会では、若者から流し見できるTikTok等で情報を発信して欲しいなどの意見があったが、自分から情報を取りに行くということを、若い人に理解してもらったりする方がいいのではないか。

もちろん貴重な意見であり、例えばイベントなどの場合はあってもいいかもしれないが、行政が若者に見て欲しいからといってTikTokまでする必要があるのかなと感じた。

【事務局】

流し見で新しい情報をキャッチするという発想がなかったので、今の学生はそういった形で情報を知るんだなと感じた。

■市民ウェブモニター

【委員】

モニターの募集はしているのか。年代別の割合を見るとやはり若者がまだ少ない。若者の意見を聞くためにはイベントなどで声を掛けたり、高校の生徒会、選挙に来ている学生に声を掛けるのも一つの方法かと思う。

【事務局】

「広報あかるいまち」やホームページで募集しているが、若者の集まるところに働きかけるのも一つの方法だと思う。要綱で募集の仕方も決めているので、調整しながら検討したい。

(2)第3期広聴広報戦略プランの素案について

【委員】

まず、3つの視点として、『伝わる工夫』、『メディア活用』、『目的の明確化』とあるが、順番は『目的の明確化』が一番であるべきだと思う。『伝わる工夫』や『メディア活用』は戦略とか戦術だと思うがこれらが同列に出ているのに違和感がある。

また、「あかるいまち」に対するアンケート結果は、リアルタイムで公表するスタイルがいいのではないか。

自分が回答した側だと、やはり結果がすぐに見れるというのは一つ興味のあることなのかなと思う。

【事務局】

情報を受け取る側の市民の方がどういう反応や感想をお持ちかということ、今まであまり聞く機会がなく、今回の「あかるいまち」のアンケートを始めたところ、毎月いろんなご意見があり、広報していく上で受け取る側の意見はすごく大事だと感じている。

今回のプランの中では、『住民の声を聞く』ということに記載しており、やはりベースとなるのが『聞く』ことだと思っている。

【委員】

プランは高知市の職員全員が目にするものか。

【事務局】

デジタルの媒体で全職員に見れるようにする予定である。

計画というと堅苦しいイメージがあるが、今回は職員向けの計画なので、読みやすくしたいという思いである。